

地域社会との密接な連携を築こう

～地域全体で「ふるさと若戸」に誇りをもつ子どもを育てよう～

田原市立若戸小学校PTA

1 学区及び学校の概要

若戸校区は渥美半島の中南部に位置し、南は太平洋に面し、北は半島を縦断する山並みが連なり、自然豊かで施設園芸が中心の温暖な農村地帯である。学校の北側には「小山」と呼ばれる標高93.4mの山もある。コミュニティ活動が盛んで、年間を通して子どもたちのための活動が数多く計画されている。本校は、全校児童83名の準へき校に指定されている小規模校である。

2 研究のねらい

私たちPTA役員が中心となって、子どもたちの身近にある「海」「山」といった豊かな自然環境や地域に根付いている「農業」、さらにそれらに関わる「地域の人々」など、子どもたちのキャリア形成の上で重要な生活経験、社会体験の機会を十分に確保していきたい。

3 研究の仮説

地域社会と連携したPTA活動を推進し、地域の自然の豊かさ、産業の素晴らしさ、そこに暮らす人々の熱い思いに触れる機会を増やすことで、「ふるさと若戸」のよさを知り、「ふるさと若戸」に誇りをもつ子どもが育つであろう。

4 研究の方法

地域と学校と保護者をより密接につなぐために、何ができるか考え実践する。これらの活動を通して、子どもたちが「ふるさと若戸」に誇りをもつことに貢献できたか考察していく。



魚を手にする児童

5 研究の実践

(1) 春の遠足（海岸清掃・地引き網・1年生歓迎会・イチゴ狩り）

春の遠足として、地域の方の協力を得て、地引き網、イチゴ狩り体験を行っている。地引き網については、学校行事削減の流れの中、平成28年に学校行事から消えてしまった。しかし、コロナ禍の中、何かできることはないかと、2年先輩のPTA会長を中心に、コミュニティ、地元の網元等の協力を得て、2年前にPTA役員を中心に10月に地引き網を復活させた。昨年度からは春の遠足に加える形で地引き網を継続している。PTA役員としては、保護者に多く参加してもらうように呼びかけ、当日は、清掃活動の補助・網の片付け・魚の配布を行った。網を引く綱の重さに必死になる姿、網に入った魚を手づかみし、興奮する姿が多く見られた。

(2) 若戸校区合同運動会

校区・こども園（父母会）・小学校が一体となったコミュニケーションの場として、若戸校区合同運動会を開催している。例年、PTA役員は、前日準備、当日の器具の片付け、児童テントで

の手指消毒、全体の片付けを行ってきた。本年度、種目を増やしたことで時間の延長が心配される中、会がスムーズに流れるよう器具の準備も行った。前日雨が降ったため、当日朝の準備に自主的に参加したりして、時間通りできるようにした。また、PTAチームを結成して、校区種目に参加して盛り上げた。

（３）環境整備作業

春と秋に児童の各家庭1名ずつ出してもらい環境整備作業を行っている。安全面から保護者のみで行っていた。しかし、小山の荒れが激しく、子どもたちが遊びづらくなっている。また、卒業生である保護者からも、昔はもっときれいだったなどの声が上がった。コロナ禍でいろいろな活動が制限される中、小山の整備をすることは、遊び場を増やすことになり、貴重な体験になると考え、安全面の確保をした上で、子どもたちも参加する活動にするよう考えた。また、自治会にも働きかけ、一緒に活動してもらうことにした。子どもたちは自分たちの遊び場作りをするともに、自分たちのために必死で活動する大人の姿を目の当たりにした。見晴らしのよくなった小山の大岩からの景色に歓声上がるなど、貴重な体験となった。

（４）夏休みプール開放PTA特別企画

プール開放の一部の時間をもらい、PTA特別企画を2回に1回のペースで、計5回企画した。石拾い大会、縦割り班対抗ビート板リレー、水中鬼ごっこ、ジャンケン列車からのジャンボ洗濯機などを行った。はじめは楽しんでもらえるか不安だったが、子どもたちの喜ぶ姿にやってよかった、来年以降もさらに盛り上げていってもらえたらいいなと感じた。

（５）学習活動への協力

若戸小学校は、ふるさと教育に力を入れており、積極的に体験活動を行っている。今年初めて行った3・4年総合「ハマグリ掘り」では、漁協への協力要請、コースの安全確保、現地での指導・安全管理、保護者への参加の呼びかけを行った。親子そろって大興奮の体験となった。この他にも、各学年から菊のハウス見学を行いたい、町探検でお店を見たい、などの要請があれば、適切な人や場所を紹介し、都合が合えば同行した。

6 研究の考察

子どもたちが地域のよさに触れることや地域の方と接する機会が増えたことで、改めて自分たちの住んでいる若戸校区の素晴らしさを実感できたように思える。また、活動をともした保護者にとっても同様であったように感じる。

7 成果と今後の課題

コミュニティや先生方と一緒に考えたり、要望されたことを快く引き受け、みんなで考え試行錯誤しながら企画・運営したりすることで、子どもたちが生き生きと活動する姿が多く見られた。そして、私たち自身も、改めて若戸校区のよさを発見することができた。

今後も、地域社会との連携を進めることをPTA活動の1つの柱として継続、発展させていきたい。この思いを今後の役員にも伝え、子どもたちも私たちも「ふるさと若戸」に誇りがもてるようにしていきたい。